

(概要版) 文学作品を読み深める力を育てる
 中学校国語科指導の工夫
 - 「分析の観点」を基にした「対話」活動を通して -

研究の背景

長期研修員 武川 美歩

課題

文章の特徴や表現の仕方について考えることが苦手
 「はばたく群馬の指導プラン」

実際の授業では

生徒の気持ち

文学作品の読み取りは「センス」が大事?



「この場面で主役はどんな気持ちなのでしょう?」

そのとき、生徒は・・・

①どこに書いてあるの?

はっきりと書かれていないので分からない。

②想像はできるけど、どう説明すればいいの?

叙述を基にした「解釈」ができない。

③結局どの意見が良いの?

各自の「主観」が根拠なので話し合いがかみあわない。

教師の願い

- 作品の内容を読み取らせたい
- 作品の読みを深めさせたい



課題解決のために



文学作品のとらえ方に対する共通の認識

そのためには

「分析の観点」の習得

「読み方」の理解

文学作品を読み深める力

客観的な観点を基に、文学作品の構造や細部の表現の役割や効果を分析的にとらえることで、書き手の表現意図を理解し深く「解釈」する力

共通の認識に基づく「解釈」の交流

そのためには

「対話」活動の工夫

研究構想図

目指す生徒像

文学作品を読み深めることができる生徒

3年間らせん的、反復的に学習することで、文学作品の「読み方」を身に付けます。



内容についての「解釈」の深まり

<原因その3>
 作品の構造や細部の表現を根拠に「解釈」することはできても、それが深まらない。

<原因その2>
 作品の構造や細部の表現を根拠にした「解釈」ができない。

<原因その1>
 作品の構造や細部の表現が、内容理解の大事な「観点」だと分からない。

客観的な検討を経て、自己の「解釈」や根拠について補強や修正をすることができる。

文学作品の構造や表現を根拠にした「解釈」をすることができる。

文学作品のとらえ方に対する共通の認識をもつことができる。

見通し3
 拡充・深化

見通し2
 活用

見通し1
 習得

「分析の観点」の習得とそれに基づく「対話」活動

「分析の観点」を基にした自己の「解釈」を他者と交流する。

- ・ <個対集団の対話> グループで・全体で
- ・ <自己内対話> 自己と・作品と

「分析の観点」を基に当該作品の内容について読み取る。

- ・ <自己内対話> 自己と
- ・ <個対個の対話> 教師と・ペアで・取材で

なじみの深い昔話や既習の文学作品などを基に、当該作品に適した「分析の観点」について学ぶ。

文学作品をとらえる共通の「ものさし」

- ① 設定 ② 人間関係 ③ 視点
- ④ 構成とクライマックス ⑤ 対比
- ⑥ 象徴 ⑦ 主題 ⑧ 批評

現状と課題
 構造や表現への注意が足らず
 文学作品を読み深められない



授業実践（中学1年）

文学作品を 読み深めていく過程

- ## ①「分析の観点」について 学ぶ (見通し1)

- ## ②「分析の観点」を基にした「解釈」をもつ（見通し2）

- ### ③自己の「解釈」について他者と交流する（見通し3）

- #### ④交流後の最終的な「解釈」 を書く (見通し3)

- ## ⑤とらえた主題を基に学習の まとめを書く（見通し3）

習得

活用

扩充

扩充

⑤ 拡充・深化<2>

作品を読み深めるために

とらえた主題を基に、初発の感想と比べながら、ワークシートに学習のまとめを書かせる。

ワークシートⅢ「交流マップ」

1 「解釈」に対する
「共感や納得」
「反論や疑問」の
付せん紙を貼り合う。

共感や納得を書<
付せん紙

テーマ
この作品の中で、一番
かわいそうなのはだれか。

1 「解釈」に対する
「共感や納得」
「反論や疑問」の
付せん紙を貼り合う。

反論や疑問を
書く付せん紙

自分なりのメモを
書く付せん紙

補強」の羽

2 貼られた付せん紙を基にして同じ「解釈」の者同士で相談し、「解釈」の補強をする。

(例)
「反論や疑問」に対する「解釈」
の補強
他の「解釈」への反論

場

3 全体交流
中でメモ
取る。

4 交流で使った3種類の付せん紙を基にして、最終的な「解釈」を書く。

ワークシートⅣ (裏面)

「大人になれなかった弟たちに……」を読み終えて、あなたが今感じていることや、考えたことをまとめましょう。

最初は、母が子どもを必死で守ろうとしていて着物がなくなるまで頑張っているのを強くすごいと思っていました。でも本当はいつも辛くて悲しくて、ただ強い女性を演じて我慢していただけだと分かりました。

私は最初読んだ時は、ヒロユキだけが
かわいそうだと思っていたけど、話し合
いなどを通して、僕も母も辛いことがあり、
この話ではみんながかわいそうだし思
いました。戦争ではヒロユキのような小さ
な命でも奪われてしまてこわいと思い
ました。戦争で亡くなった人の死は、守
っていた人にとってはとても大きな出来
事で、一生忘れられないことなんだと改
めて思いました。

母は幼いヒロユキを守り切れず泣き、僕はミルクを盗み飲んだ自分を責めた。二人とも罪悪感でいっぱいだったろう。改めて戦争の悲惨さや無意味さを感じた。戦争によって人生の大切な時間を奪われた人が多くいた、という事実が辛かったし、今まで考えたこともなかった。私達に出来ることは、「関係ない」と思わずに戦争を体験した人から話を聞いてそれを後世に伝えていくことだと思う。

生徒の感想（抜粋）

① 習得

全員が当該作
品について同
じとらえ方を
するために

その作品に適した「分析の観点」について、ワークシートで学習させる。

浦島太郎
むかむか、あるところ
に浦島太郎と云ふ優い
漁師がゐりました。ある日浜
辺を歩いていると一匹の亀
が子とて逢ひにめられた
のを見つけたました。「こ
れね、なめをよめたらか
わづらうたよ」はなめておや
うと云て浦島太郎は
亀を助けました。
数日すぎたある日、いつも
のようにつらきとて亀が
海中から顔を出し、こ
う言いました。
浦島太郎はの間あな
たに助けられた電です。お
姫様があなたをこので、
あなたを竜宮城にお連れ
するつらにおつしやうと
お迎えに参りました。」

[illegible]

ア 浦島太郎が□を助ける。

イ 浦島太郎が□□に招か

ウ 浦島太郎がお土産に□□

エ 浦島太郎が□□□□に

1 話の中心になっている人物の考え
や行動が大きく変わる文

2 それまでずっと同じだったもののや
出来事が大きく変わってしまう文

3 物語で一番盛り上がる文

(例) 楽しい話なら一番楽しいところ
悲しい話なら一番悲しいところ

をクワイマックスといえます。
つまり、「絵になるシーン」のこと
だね。



② 活用

自己の「解釈」をもつために

教師との「対話」・ペアでの「対話」・取材での「対話」等、多様な
個対個の「対話」活動を行い、考えを引き出させる。

③ ④ 拡充・深化<1>

自己の「解釈」を広げたり深めたりするために

グループでの「対話」や全体での「対話」等、個対集団の「対話」活動で付せん紙を用いた交流をし、自己の考えについて補強や修正をさせる。

研究の結果と考察

■ ワークシートⅢ「交流マップ」

最終的な「解釈」と感想の比較（下線部参照）



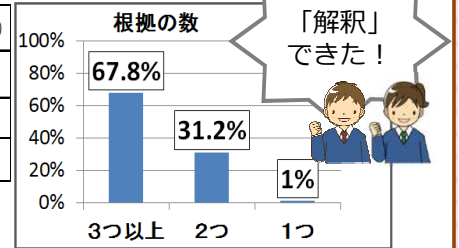
拡充
・
深化

当初の「解釈」	「僕たち～美しいです」とある。本当は自分が一番辛くて悲しいのに、子どもには悲しいと思わせたくないという母の気持ちは複雑で深いものだし、それを今も「僕」が思い出しているから。
最終の「解釈」	戦争という大変な時期に父親もおらず、たった一人で皆のことを支えなければならなくて、自分を一番犠牲にして我慢しているのは母だと思えます。確かに戦時中に生まれ楽しい思いを知らずに死ぬヒロユキもかわいそうかもしれませんが、けれども自分を犠牲にしたのに子どもを失う母の方が苦しいと思います。

初発の感想 (原文のとおり)	印象に残った場面は親戚に疎開の相談を断られたところです。母親の姿、その姿がとても強いなと思いました。
学習のまとめ (抜粋)	最初普通に読んだ時は「僕」がミルクを盗み飲みしてから弟が死んだんだと単純に考えていました。だから弟がいる身として「僕」のことが許せませんでした。でも泣きながらミルクを飲む挿絵を見たり授業で「僕」のことを読み取ったりしているうちに私もそうしちゃうかも・・・と思えてきました。戦争という大変な時代のことを私は知りません。こういう本がないと想像もできないと思います。私達を育ててくれる母やありふれた日常に感謝しようと思いました。

■ ワークシートⅢ「交流マップ」 教師との・取材での「対話」活動の結果

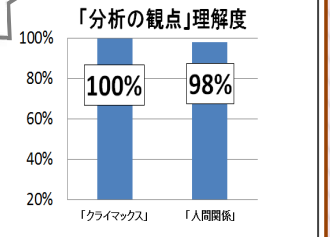
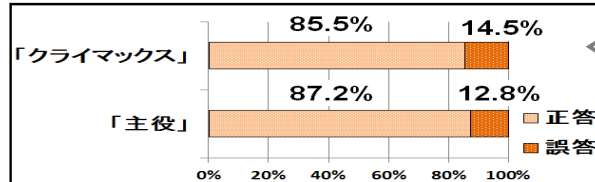
「対話」活動の種類	活動に対する評価規準	生徒の状況(%)
・教師との「対話」	ワークシートに、教師による赤ペンのチェックが為されている。	100
・取材での「対話」	十分満足 自分以外の5人以上のところに取材に出向き、意見交換をしている。	67.7
	おおむね満足 自分以外の3人以上のところに取材に出向き、意見交換をしている。	87.5



■ 自分なりの「解釈」をもつことができた・・・100% ＜ワークシートから＞

叙述に基づく根拠を・・・3つ以上挙げた **67.8%** 2つ **31.2%** 1つ **1%**

■ ワークシートⅡ「分析の観点」正答率



■ 「分析の観点」生徒の理解度＜アンケートから＞

作品における「クライマックス」の定義と役割が分かった・・・**100%**
作品における「人間関係」の定義と役割が分かった・・・**98%**

成果と課題

成果

- 文学作品のとらえ方に対する共通認識となる「分析の観点」について学ぶことで、生徒それぞれが思いつきではなく、叙述を根拠とした「解釈」をもち、さらにそれを周囲と交流させることで「文学作品を読み深める力」を高めることができた。
- 学習課題や発達段階に応じて交流相手や学習形態を変化させていく多様な「対話」活動は、各自が「解釈」をもつだけでなく、広げたり深めたりする上で有効であり、言語活動の一例として機能することが分かった。

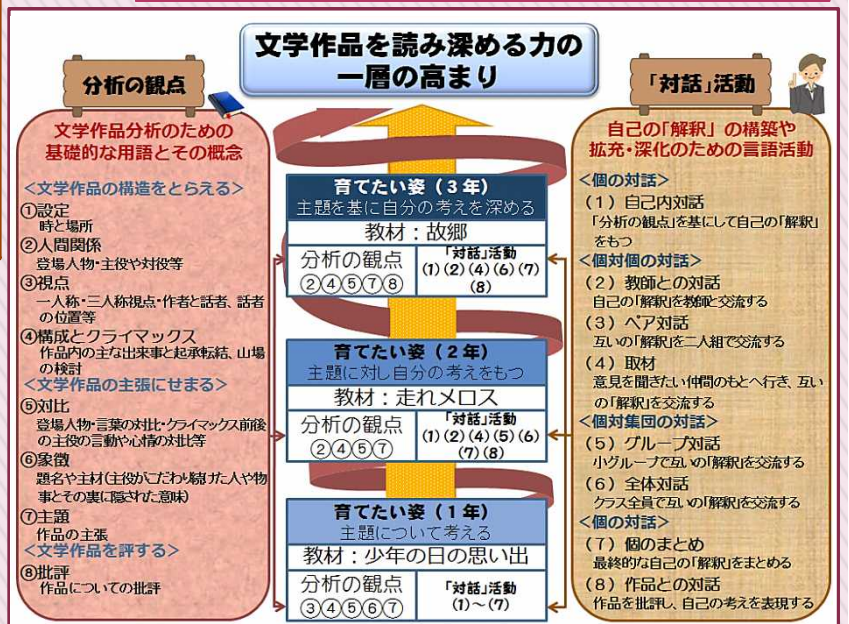
課題

- 「分析の観点」については、提案した八項目のうち、どれを、どの単元で、いつ扱うのか、またどのように扱うのかなど、授業を構想する際に、教師が十分考慮する必要がある。
- 個、グループ、全体と「対話」活動を変化させるほど生徒間の思考、作業両面での時間的格差が生じるので、活動の際には十分な配慮が必要である。

提案



「分析の観点」を基にした、らせん的・反復的な学習が「文学作品を読み深める力」を高めると考えます。そこで、代表的文学作品を取り上げ、その中で扱いたい「分析の観点」を明確にした展開例（ワークシートを含む）を提案します。



問い合わせ先 群馬県総合教育センター

担当係：高校教育研究係

0270-26-9214（直通）